

大会名称: 第27回ユニバーシアード競技大会 バスケットボール競技(女子)

開催場所: Biek Tau Sports Complex

試合区分: No. 205 女子 予選ラウンド第1戦 コミッショナー:

期 日: 2013(H25)年7月8日(月)

主審: PAULIK Robert (CZE)

開始時間: 10:00

副審: OVINOV Semen / BELIAKOV Sergei (RUS)

終了時間: 11:35

カナダ

(通算1勝0敗)

○
76

18 -1st- 6
24 -2nd- 14
21 -3rd- 12
13 -4th- 16
-OT1-
-OT2-
-OT3-

●
48

日本

(通算0勝1敗)

「第27回ユニバーシアード競技大会 バスケットボール競技」のバスケットボール女子も男子に続き開幕。女子ユニバーシアード日本代表チームの初戦の相手はカナダ。立ち上がり、カナダ #12LEDONGHAMLに先制点を許すと、日本はミスが続き、相手に連続得点を与えてしまう。タイムアウトを要求し、立て直しを図る日本だが、ディフェンスを粘るもシュートの決定率が低く、点差は開いていく。前半を終了し、20-42と大きくビハインドを負った日本は、後半に入っても流れを変えることが出来ず、苦しい時間帯が続く。最後まで諦めず戦うも、前半の得点差が響き、48-76で敗れ、黒星スタートとなった。

第1ピリオド、両チームともなかなかシュートが決まらず、重い立ち上がり。カナダは #12LEDONGHAMLの速攻からの得点で先制すると、その後も日本のミスを誘い、シュートを沈めていく。開始5分、3-12となったところで日本はタイムアウト。だが日本はなかなかリズムをつかむことが出来ず、さらにファウルから相手にフリースローを与えてしまい、点差が開く。6-18、カナダリードで終了。

第2ピリオド、日本はディナイディフェンスで活路を見出そうとするが、カナダにバックドア攻撃で連続得点を許す。さらに、日本のシュートがリングに嫌われ、開始2分半で6-28と離され、たまたまタイムアウトを要求。タイムアウト後、日本は2-3ゾーンディフェンスを仕掛け、相手のターンオーバーを誘い、#11篠崎の3本の3Pシュートらで追い上げる。だがなかなか点差は縮まらず、20-42と大きく離され前半終了。

ハーフタイムで前半のリバウンド合計数が日本13本、カナダ22本であったことから、リバウンドとルーズボールの徹底、ディフェンスでは高い位置から相手を捉えることを確認し、後半へ。

第3ピリオド、日本はオフェンスで躊躇することなく積極的にシュートを狙い、#10落合、#11篠崎の3Pシュートで得点する。さらにディフェンスでは粘りを見せるが、カナダに24秒ギリギリでインサイドアウトの3Pシュートを決られ、苦しい状態が続く。その後も、#8伊集、#11篠崎のドリブルインから合わせのプレイで得点するも、単発なプレイが続き、思うように流れを掴めない。32-63、日本は大きなビハインドを負い、最終ピリオドへ。

第4ピリオド、少しでも点差を詰めたい日本は、オールコートでプレッシャーをかけると、カナダはミスを連発する。だが日本の得点も飛び悩み、なかなか点差は縮まらない。その後、一進一退の攻防で試合が進む。日本は#13加藤、#15橋詰がディフェンスで頑張りを見せると、そこから#13加藤がバスケットカウントを3点プレイを見せ、残り2分51秒に46-72と得点差を詰める。しかし終盤、カナダは高さを生かしたプレイで、ペイントエリアを支配し応戦。その後も最後まで諦めず食らいついていくも、前半の点差が響き、48-76と初戦を落とした。

予選ラウンド第2戦、日本は7月9日(火) 12:30(現地時間)よりチャイニーズ・タイペイと対戦する。